

研究主題

自ら学び、課題を解決する資質の育成
～主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進～



あいさつ

豊島区教育委員会 教育長 三田一則

このたび、豊島区立千川中学校が平成28・29年度豊島区教育委員会研究推進校として、2年間の成果を発表されますことに深く敬意と感謝の念を表します。

本校は、「自ら学び、課題を解決する資質の育成～主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進～」を研究主題として、全教科で「千川中スタンダード」を共通実践し、生徒の課題発見力や問題解決能力の向上を図ってこられました。

これから先のグローバル化の進展に伴う国際競争の激化等、こうした時代を生きる生徒たちには、自ら課題を発見しその解決に向けて、豊かなコミュニケーション力や主体的・協働的に学び、探究する力が求められております。千川中学校のこれまでの研究において生徒に身に付いた力は、まさに未来を生きるために必要な力に他なりません。

この度、その成果を区内外に発信できますことは、大変意義のあることだと確信しております。

最後に、本研究の推進にご尽力をいただきました紅床直也校長先生をはじめ、教職員の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、ご指導をいただきました講師の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

あいさつ

豊島区立千川中学校 校長 紅床直也

昨年度末に公示された新学習指導要領では、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」だけではなく、「何ができるようになるか」という視点の重要性が強調されています。この3つの柱を備えた教育のためには、どの授業でも、新しく理解できた知識・身に付けた技術を自覚し、学習意欲を持って自ら設定した次の課題に挑んでいける仕掛けの創造が不可欠となります。本校では、授業展開の指針として「千川中スタンダード」を掲げ、生徒の学ぶ意欲の向上を図り、全教科での共通実践により学力の定着・向上につなげる研究を目指しました。「主体的・対話的で深い学び」の実現は、本研究の目標であり通過点でもあります。「教育都市としま」連峰の一翼を担うべく、チーム千川中として研究に邁進してまいりました。

最後に、2年間にわたる本研究に、親身なご指導を賜りました明治学院大学心理学部教育発達学科教授 中村 敦雄先生をはじめ、授業研究の講師として貴重なご助言をいただきました7名の先生方に心より感謝をいたしますとともに、貴重な学ぶ機会を頂戴した豊島区教育委員会の皆さまに厚く御礼申し上げます。



平成30年1月12日(金)

豊島区立千川中学校

生徒の実態

H27年度 全国学力調査 生徒質問紙(3年)				
番号	質問事項	千川中	東京都	全国
		そう思うと答えた生徒の割合 (%)		
38	1・2年生のときに受けた授業では、自分の意見を発表する機会が与えられていたと思いますか。	60.9	42.7	46.2
39	1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	54.7	30.5	34.2
40	1・2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	40.6	21.5	22.1
41	1・2年生のときに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。	29.7	30.8	41.9
42	1・2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	15.6	13.8	19.4
45	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。	35.9	28.6	30.8
46	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	15.6	17.8	18.4

「自分の意見を発表する機会」、「生徒の間で話し合う活動」、「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動」については、全国や東京都と比較して肯定的な意見が多い。

「目標(めあて・ねらい)が示されていた」・「学習内容を振り返る活動をよく行っていた」の質問に対しては、全国や東京都の平均値を下回る傾向が見られる。

「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思わない」と回答した生徒は、全国や東京都と比較して多く見られる。

平成28年度授業改善推進プラン

教育課題	課題 (分析・考察によって 明らかになったこと)	改善の方策	関連する質問項目 (3年生) ※肯定的回答の割合
言語活動の充実	自分の知っている語彙が少なく、表現力が身についていないことが考えられる。	豊かな語彙力を身につけるために、発表の場を多く設け、聞いて話し学ぶ授業を取り入れたい。	授業の中で話し合ったり、自分の考えを発表したりする機会が多い。
			自校 豊島区 72.6% 77.1%
教員の授業力向上	各種学力調査の結果と授業アンケートにより生徒の学力の定着度を徹底的に把握、分析する。それに基づき、教員一人一人が授業改善に努めるとともに、千川中学校としての指導力向上に向けて、共有した課題を改善できる組織を整える。	来年度の研究発表(「自ら学び、課題を解決する資質の育成」)に向けて、本校の学力に対する課題を徹底的に分析し、改善を図る。そのために研究推進委員会を組織する。解決すべき課題を明確にし、2年間かけて取り組む。アクティブ・ラーニングを活用した主体的な学びを実践する。課題を解決・探求する意欲・能力を育成できる指導方法を研究・実践し、生徒の変容を図る。	学校の授業はよく分かる。
			自校 豊島区 83.5% 87.3%

分析

生徒が1単位時間の学習の流れを理解し、見通しを持って主体的に授業に取り組むための授業改善が必要。

教員は、「主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業」を意識している。

生徒は、自分の考えや意見を伝えることは難しいと感じている。

教員の授業力向上

言語活動の充実を通して、自ら学び課題を解決する資質の育成

仮説

仮説1 生徒が1単位時間の学習のねらいを理解し見通しをもって学び、その学びを振り返るとい授業を積み重ねることで、「自ら学び課題を解決しようとする生徒」の育成につながるであろう。

仮説2 教員は、お互いの考えを交流させて、より深い学びを取り入れた授業を繰り返し実践していくことで、「自分の考えや意見を伝えることができる生徒」の育成につながるであろう。

研究全体構想図

次期学習指導要領が目指すもの

育成を目指す資質・能力

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

豊島区教育ビジョン2015

1「確かな学力の育成」

1-I 学びの基礎・基本の徹底

- ①言語活動の充実
- ②学力の定着と授業改善推進プラン
- ④教育の情報化に対応した学習の推進

計画
PLAN

実行
DO

評価
CHECK
改善
ACTION

結果
の
数値化

学校教育目標

深く考え、自ら学ぶ生徒

目指す生徒の姿

自分の考えや意見を伝えることができる生徒

研究主題

自ら学び、課題を解決する資質の育成
～主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進～

学習過程の質的改善

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる。

対話的な学び

子供同士の協働、教師との会話などを通して、自らの考えを広げ深めさせる。

深い学び

教科の特質に応じた見方や考え方によって思考・判断・表現し、学習内容をより深く理解させる。

千川中スタンダード

課題設定

その時間の目標や課題を理解する。

解決活動

自力解決

自分の考えや意見を積極的に発表する。

集団解決

友達の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりしながらみんなで課題を解決する。

振り返り

勉強したことを確認して、自分の中で整理する。

今日はこんな勉強をするのか！
できるかも！

こう考えたんだけどどう思う？

意味ややりかたがよくわかった！

いろいろな考え方があるんだ！

授業への評価と改善

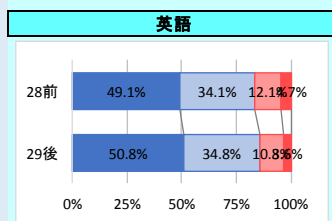
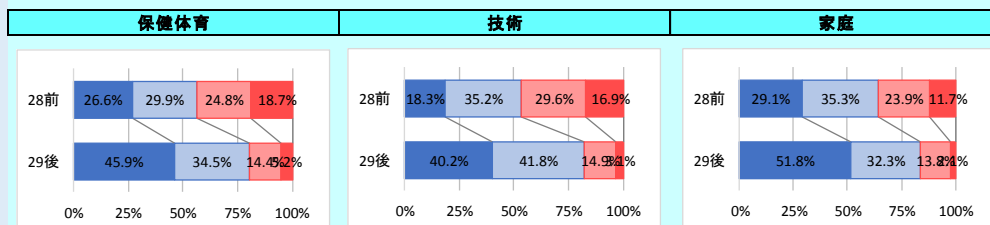
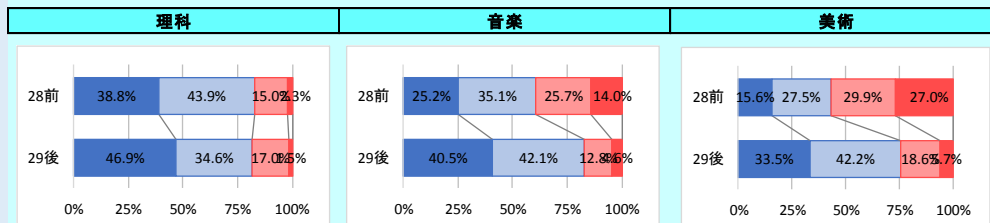
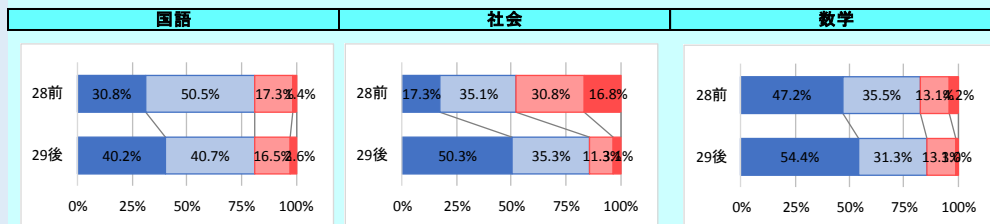
- ・生徒による授業評価（振り返り・アンケート）
- ・教職員による授業評価（アンケート）
- ・国・都・区の学力調査結果分析（授業改善推進プラン）

生徒の変容

平成28-29年度 授業アンケート 結果比較

あなたは、話し合ったり、自分の考えを発表したりする授業で、学習の内容がわかるようになった。

■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない



友だちと話しなが
ら、問題を解けて楽し
く学習できた。
(1年数学)



ひとつの問題を解
き、それぞれ違った解
き方を発表する授業の
時、自分が解いた解き
方以外に新たな解き方
を知ることができた。
(3年数学)

班で活動して考えたり、
グループで実験をし
たり、楽しかったです。
(1年理科)



授業で、自分の考え
などを英語で伝えると
いうのが以前よりも少
しできるようになっ
た。書くだけではなく、
友だちや先生の前
で言うのも少しだけ得
意になった。(2年英語)

授業で不得意だった種
目も友だちと話し合い、
コツを教えてもらうこと
で、できるようになり、
前より積極的に楽しく試
合をすることができた。
(3年保健体育)



授業の最後に行う感想を
書くところがとても良いも
のだと思います。今日はど
んなことを学んだかを考え
るとき授業のちょっとした
復習にもなり、友だちの意
見を聞くことで、自分が気
が付かなかったことにも気
づけるので良かったです。
(3年社会)

班で協力して、問
題を解くというの
があり、わかる人がわ
からない人に教える
ことで、自分自身の
理解も深まった。
(3年理科)

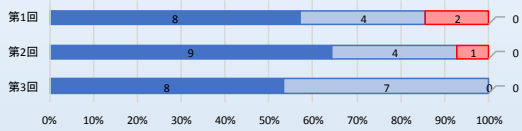
授業者の変容

平成29年度 教員アンケート 第1～3回

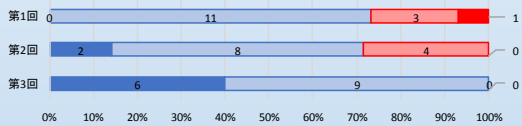
■ とてもあてはまる ■ あてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない

教師全員が自己肯定的な回答を示している項目

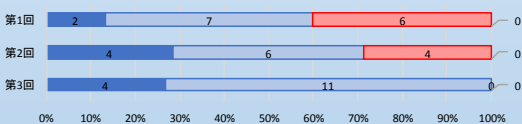
基礎的・基本的な知識・技能を活用する場面を設定している。



活用を図る学習活動に取り組む意義を生徒に意識させている。



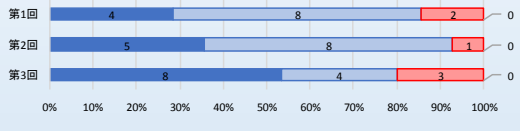
自分なりの考え方や個性的な表現を奨励して、学習意欲を高めている。



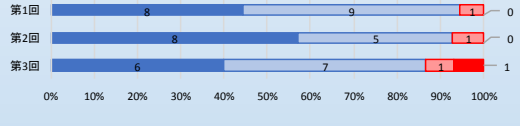
この3つの項目は、新学習指導要領における育てたい資質・能力の3つの柱＜知識・技能＞、＜思考力・判断力・表現力＞、＜学びに向かう力・人間性＞との関連が深い。何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶかを追究し、育成のバランスを重視した授業を構築し、確かな学力の育成を目指した本校の「授業観の改革」や「授業スキルの改善」の研究が実をむすんだといえる。本校教員の授業力はこの2年間で確実に高まった。

自己否定的な回答を示している項目

思考力・判断力・表現力の育成に重点をおいて授業設計をしている。



生徒が主体的・協働的に取り組む学習課題を設定している。



授業改善の意識が高まる中で、自己の授業を見つめる目がより精緻化されてきたことが原因ではないだろうか。教えることへの責任、専門的な識見、子どもの発達を包括的にとらえる感性を絶え間なく磨いていく、そんな教員としての仕事への努め、在り方をみた結果であると位置付ける。

その他の項目

「問題解決や創作表現の学習プロセスを生徒に設定させている」の項目において肯定的回答が27ポイントと大きく上昇した。一方で「ICTを生徒の思考や対話、表現のツールとして活用させている」については、肯定的回答が36→43%と低い数字のままである。「パソコンを使った授業は分かりやすい」という生徒の意見もあるので、全教員で積極的に活用する。

研究実践

① 中村敦雄先生からのご指導

- **振り返り**についての検証
- 1単位時間の授業構成を計画的に組み立てる必要がある。
- 教材の工夫としての視覚教材の有効性。
- 思考過程／学び合い過程の「見える化」の有効性。
- **教師の言葉かけ**の大切さ



③ ICT

○ 生徒授業アンケートには「授業の中でパソコンを使って資料を見せて説明するのがとても分かりやすかった」とある。授業にICTを活用しながら資料提示している教科もあり、今後も研究を重ねていくことで改善が見込まれる。



② 分科会 計7回

- 3つの分科会に分かれ、年間を通して同じメンバーで研究
- 分科会の観点：研究授業・公開授業の観察観点
 - ① 生徒が主体的に学びようとする取り組む活動がされていたか。（発問の仕方・目標提示・的確な指示・教材の工夫）
 - ② 生徒が学んだ事を活用したり表現したりする活動はどうであったか。
 - ③ 深い学びにつなげるための「振り返り」は具体的にどのように提示されているか。
 - ④ 生徒の学習意欲を高めるための具体的な言葉や言葉かけのタイミングはどうであったか。



研究の成果

2年間、本校の生徒の課題を踏まえ、自ら学び課題を解決する資質の育成を目指し、「千川中スタンダード」を打ち立て、全校をあげて授業改善に取り組んできた。この取組を全教員が共通理解して全教科で実践することで、教員の授業に対する工夫への意識が高まった。また、研究授業を重ねる中で、教員同士が互いの授業から授業スキルを学び合い、本校教員の授業力は確実に高まったと言える。生徒にも「千川中スタンダード」が浸透してきたことで、問題解決的な学習に向けた意識が高まっている。また、思考力・判断力・表現力を育成することに重点を置いた学習指導を行うことにより、習得した知識や技能を十分に活用することで、自らの考えを深め他者と関わりをもって、課題を解決していこうとする資質の育成につながったと言える。

<生徒の変容>

- ・ペアやグループでの対話的な学びが、問題解決に向けた意識の高まりや達成感につながり、学習意欲につながっている。
- ・話し合ったり自分の考えを表現し発表することができるようになったと感じている生徒が増えた。
- ・1時間の授業に見通しをもって取り組めるようになったことで、今何を学ぶのか自分で考え、主体的に学習に取り組む生徒が増えた。

<教員の変容>

- ・授業改善の意識が高まり、学んだことをどのように生徒に活用させるかを考えて授業を行うようになった。
- ・授業公開や研究授業、講師の先生方からの専門的な指導を受けることで、新たな気づきを生み、若手教員だけでなく学習指導や生徒との向き合いかたを考える機会となった。

今後の課題

①「振り返り」活動の充実

生徒アンケート、教員のアンケート共に課題を抱えている。「振り返り」を単なる知識のまとめとせず、生徒がいかに主体的に活動し、学んだことを次の学習へとつなげるものにするのか提示の仕方、方法や時間確保を含め、更に研究を重ねていく。

②教員の言葉かけの重要性の研究

今年度第1回目の校内研究会で、「学習者と教師、学習者同士がつながり合うための言葉かけのあり方」について学んだ。その後の教員アンケートで、「生徒を褒めることは、生徒の主体性を喚起し意欲的な表現活動に大きな影響を与えるものである。」という共通認識の元、研究授業の観察視点に加え、分科会でも検証してきた。どのようなタイミングで、どのような目的で言葉かけを行うのが有効なのかに加え、教師の表情や声のトーンや大きさについても学んでいきたい。

③ICTを活用した授業の充実

教材の工夫の点で、視覚教材は、生徒が主体的に学ぼうとする意欲を引き出すことに有効であることは、生徒の声にもある。教師側の準備は大変であるが、これまで分科会で行った情報交換を糧に今後も研究重ねていく。